

# 熊本大学黒髪事業場における安全衛生管理について

## 職場巡視へのリスクアセスメントの導入

戸田 善統

熊本大学工学部技術部

### 1. はじめに

本学では、安全衛生管理体制を整備し、全学的な取り組みおよび各事業場（黒髪事業場、本荘・大江事業場、附属病院事業場、京町事業場）での職場環境に合わせた取り組みを計画、実施し、教職員および学生に対して安全で快適な職場環境の形成を進めている。筆者が所属している黒髪事業場（図1）では、平成21年3月より、職場巡視に対してリスクアセスメントを導入している。そこで本報告では導入されたリスクアセスメントについての報告を行う。

### 2. リスクアセスメントについて

リスクアセスメントとは、職場（作業場）の潜在的な危険性、有害性を見つけ出し、それらのリスクを見積り、リスクの除去もしくは低減するための措置を計画的に実施するための手法である。リスクアセスメントの基本的な手順は図2に示すとおりで、導入により得られる効果として以下のことが挙げられる。

- ・ 職場全体の安全衛生におけるリスクに対して共通認識を持つことができる。
- ・ 改善措置をリスクレベルに応じて優先順位を決め、計画的に実施することができる。
- ・ 費用対効果の観点から有効な対策を実施することができる。

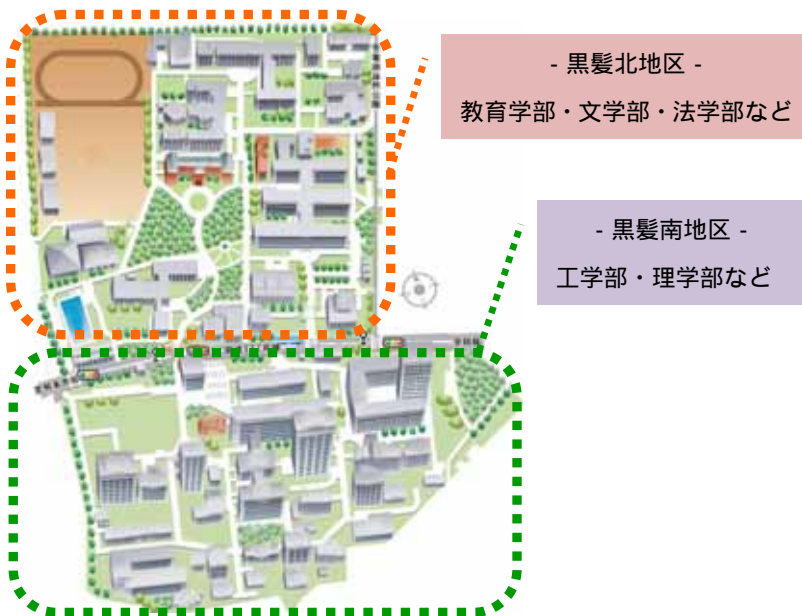


図1. 黒髪事業場（黒髪キャンパス）マップ

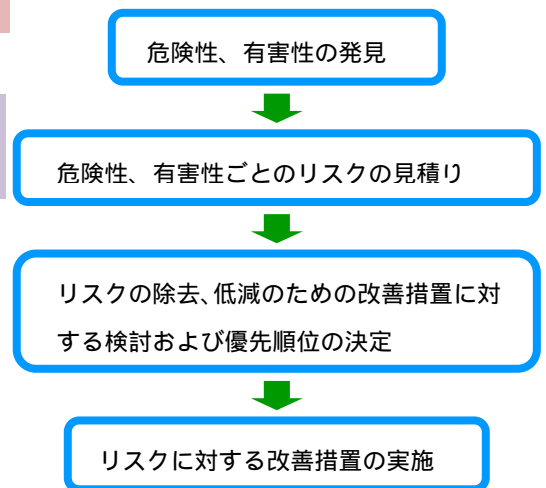


図2. リスクアセスメントの手順

### 3. 職場巡視へのリスクアセスメントの導入

#### 3.1 リスク見積りと評価基準について

リスクアセスメントを導入するにあたり、職場巡視時に発見したリスクを見積るための評価基準が必要である。図3

は黒髪事業場の安全衛生委員会で作成され、現在、使用しているものである。この評価基準は数ヶ月間の試用期間を経て、作成されたものである。なお、試用は事業場の専任衛生管理者と工学部技術部所属の選任衛生管理者により実施した。

### リスクアセスメントに係るリスク見積・評価基準

#### 1. リスクの見積り手法

①リスク（危険状態）が発生する頻度、②リスク（危険状態）が発生した時にケガをする可能性、③負傷又は疾病の重篤度の3つの要素による「加算方式」でリスクを見積もる。

#### 2. 評価基準

①リスク（危険状態）が発生する頻度

頻度：作業中に危険性又は有害性と作業者が接触し、リスクが発生する頻度（接している時間）を判断する。

頻度	評価点	基準
頻繁	4点	1日に1回程度
時々	2点	週に1回程度
滅多にない	1点	半年に1回程度

②リスク（危険状態）が発生したときのケガの可能性

可能性	評価点	内容の目安	
		危険検知の可能性	危険回避の可能性
確実である。	6点	事故が発生するまで危険を検知する手段がない。	危険に気づいた時点では、回避できない。
可能性が高い	4点	十分な注意を払っていないければ危険がわからない。	専門的な訓練を受けていなければ回避の可能性が低い。
可能性がある	2点	危険有害要因に注目していれば把握できる。	回避手段を知っていれば十分に危険を回避できる。
滅多にない	1点	容易に危険が検知できる。	危険に気が付けば、ケガをせずに危険が回避できる。

#### ③ケガの重篤度

重篤度	評価点	基準
致命傷	10点	死亡又は手足の切断、失明など重大な障害
重傷	6点	作業を休んで完治可能なケガ
軽傷	3点	休業しなくても、通院すれば完治可能なケガ
微傷	1点	手当後、直ちに元の作業に戻れる微少なケガ

#### ④リスク評価

リスク評価	リスクポイント	判断結果
V	18～20点	致命的問題・欠陥がある。 → 直ちに中止又は改善が必要
IV	15～17点	重大な問題がある。 → 優先的に早急な改善を図る。
III	9～14点	問題がある。 → 計画的な改善を図る。
II	5～8点	多少の問題がある。 → 計画的な改善に努める。
I	3～4点	問題は殆どない。 → 各自で心がけて改善に努める。

図3. リスク見積・評価基準

### 3.2 リスク評価マニュアルについて

評価基準の試用時に挙がった問題として、発見されたリスクを複数名で見積り・評価を行った場合、評価者により見積り・評価が異なることが数多くみられた。事業場では、この問題の解決策として、これまでの職場巡視時に発見されたリスクで、評価が異なりやすく、件数が多いものを対象にリスク評価マニュアル（図4）を作成している。

### リスクアセスメントに係るリスク評価マニュアル

転倒防止	リスクが発生する頻度(A)	評価点	ケガの可能性(B)	評価点	ケガの重篤度(C)	評価点	リスクポイント
	頻繁	4	入口付近	6	薬品庫	10	
	時々	2	人の動線上	4	書架、キャビネット、棚等(重量物)		
	滅多にない	1	入口から離れている	2	書架、キャビネット、棚等(中量物)	6	
			作業場所から離れている	1	書架、キャビネット、棚等(軽量物)	3	
※上記については、倒れやすさと近づく頻度によって評価する。				※上記の区分については、次のとおりとする。 重量物：動かすことができないもの 中量物：動かすづらいもの 軽量物：容易に動かせるもの			

図4. リスク評価マニュアル(一例)

### 4. おわりに

リスクアセスメントの導入により、事業場内の各作業場に存在する個々のリスクを評価することで、そのリスクの重大性が明確になり、また、優先順位をつけることで改善を計画的に行うことが可能となる。これにより各作業場の管理者の方々もリスクに対する認識が高まり、改善に無駄が無く、安全で快適な職場環境の形成が加速することを期待している。